用意するもの

●布帛素材（有効生地巾 110cm）

110cm 巾　Ｓサイズ　1.5m
　　Ｍサイズ　1.5m
　　Ｌサイズ　2.0m
　　LL サイズ　2.0m

●接着芯　0.9m
●ボタン　10 ～ 11.5mm　×　５個

生地について

シフォンなどの難素材の薄さではなく、とろみ系、ポリエステル、シルクデシン等、
うねうねよりは、とろんとした落ち感がある、垂れる素材を想定しています。
厚みの限度としては、ローンや薄手のリネンまで。

仕様について

縫い代が透けることや、てろんとした頼りない部分があると想定しています。
ロックミシンを使わないで、縫い代が中に隠れるような薄手生地用の仕様です。
三つ巻きなどの、難易度の高い仕様は採用していません。
その他、的確な場所に芯を貼り、縫いにくさも軽減。
薄手素材ながら、仕上がりのレベルを上げられる仕様にしました。

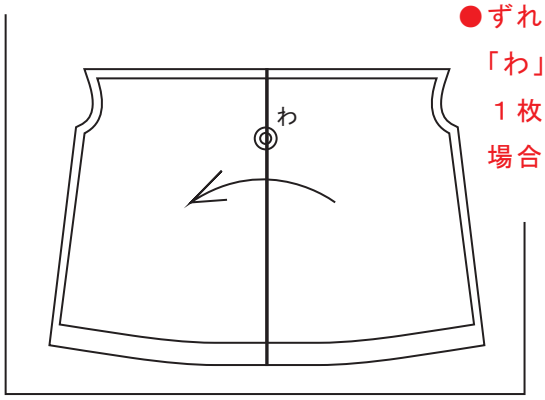
ミシン針、糸

普通地用の針と糸が使える場合もありますが、基本的に針と糸は細いものを使います。

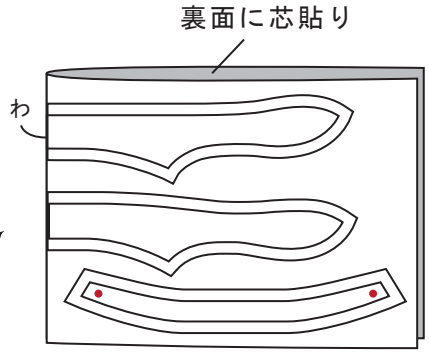
●普通針：７号～９号、ニット用針９号　（針はキズのない新しいものを）
●フィラメント糸：60 ～ 80 番、スパン糸 90 番
●必要に応じて、ミシンの押さえを薄物用に変更
●送り歯の高さを下げる
●押さえの圧力を弱くする
●針目は３cm 間で、20 針（シルキー系を想定しているので細かめの針目）

準備

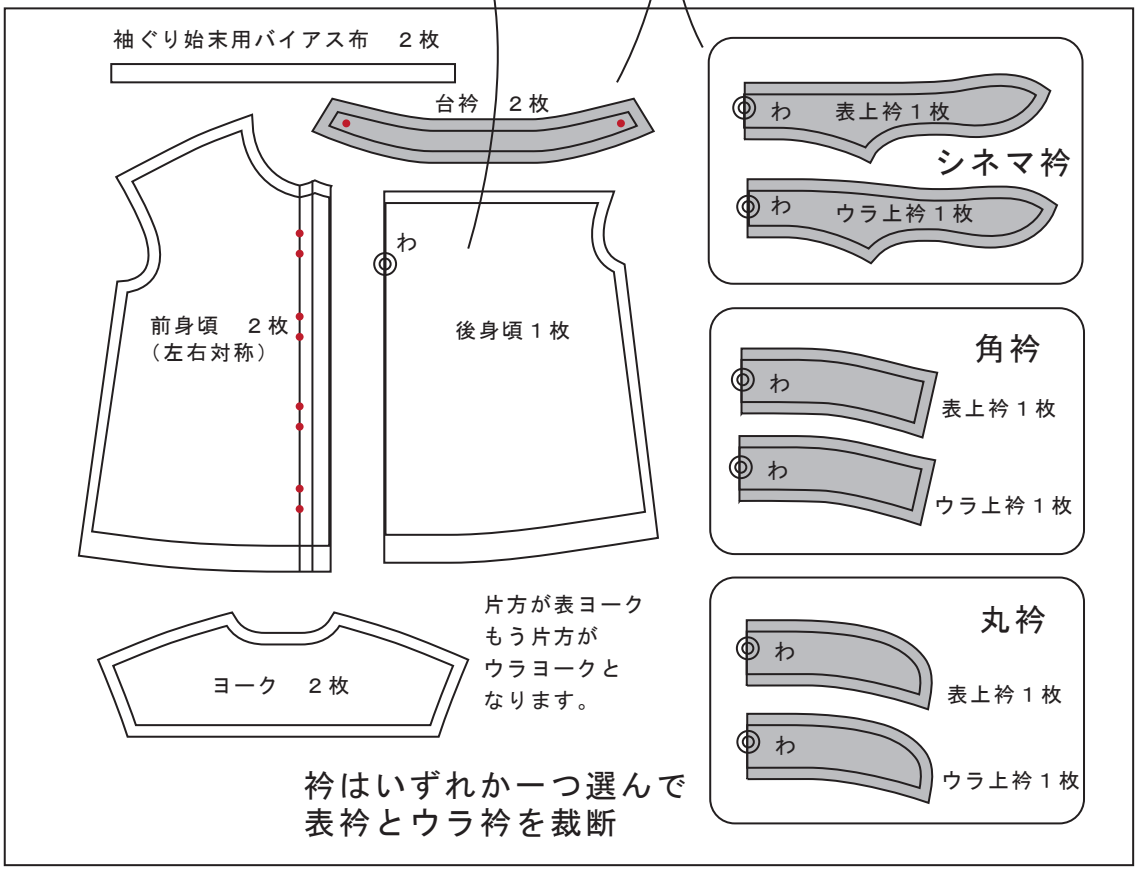
- ●裁断パーツ７　合計１１枚
- ●衿の裏面に接着芯（薄手は粗裁ちして接着してから裁断）
- ●ボタン位置に印



●ずれやすい生地は、
「わ」の部分は展開して
１枚で裁断した方が良い
場合があります。



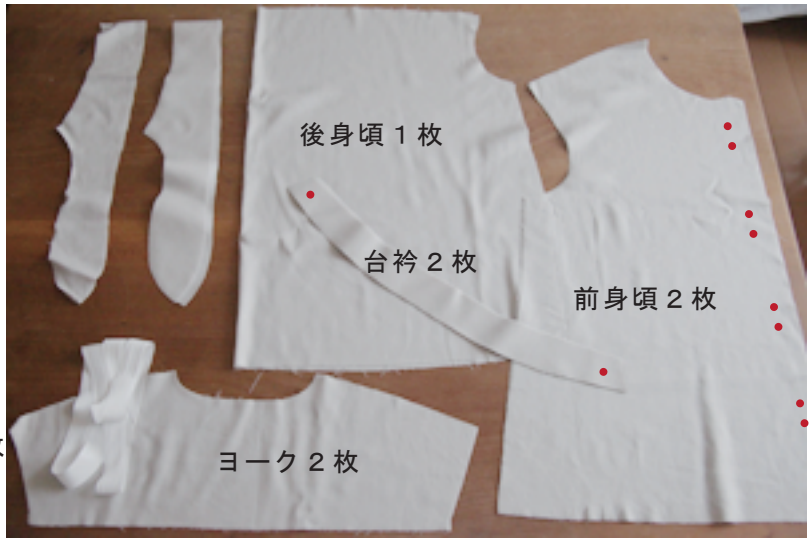
●薄手の生地で裏に芯を貼るパーツは、
あらかじめ芯を貼った生地で裁断します



裁断、アイロン

薄手生地の裁断は、通常以上に、地の目が歪まないように注意します。
（仕上がってから目立つからです）
裁断は、良く切れるハサミを使用します。
（右利きの場合）型紙の左側に沿って、ハサミを立てるようにして、刃先で
少しずつ裁ちすすめます。
一気に裁断しようとせず、進行方向のズレを微調整しながら丁寧に裁断します。
アイロンは、ポリエステル等化繊の場合は低温であて布等を使います。
折り目をまっすぐにするには、薄手のハトロン紙等を挟み込むなど工夫します。

裁断

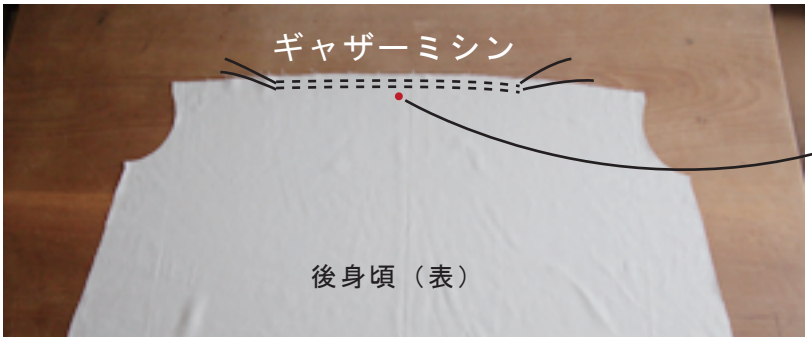


裁断をし、赤い部分に印を入れます。
ウラ衿、表衿、台衿は、芯を生地に貼ってから裁断します。

前端始末

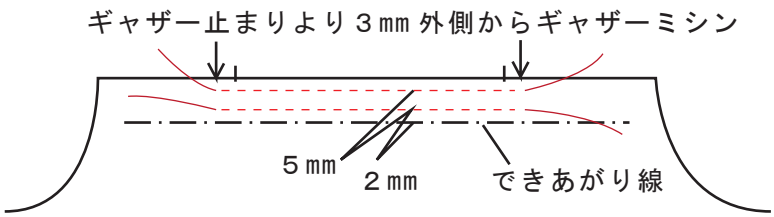
前端を三つ折りして、ステッチ始末します。

後ろギャザー

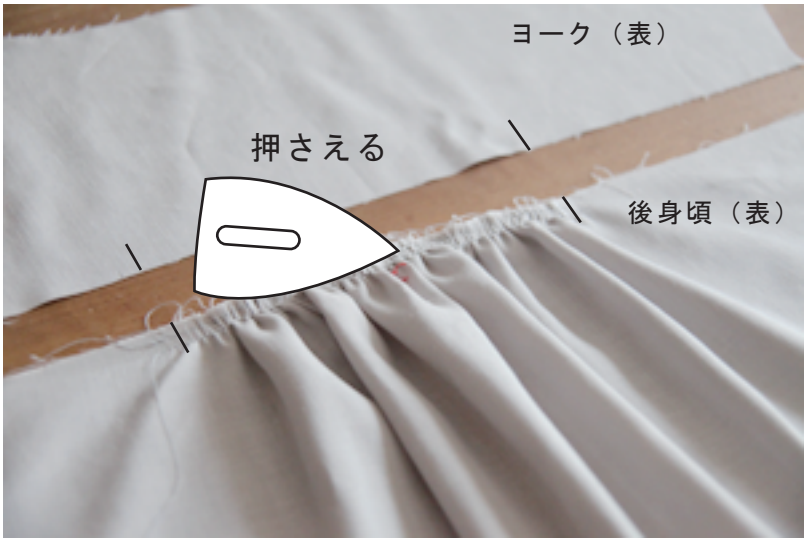


ギャザーを寄せると
後中心が見えなくなる
ので、私はここに、
糸で印をつけてます。
（フリクションペン等
でも良いかもしれない）

後中心



後身頃の上端にギャザーを寄せます。できあがり線から２mm 外側に１本、そこから
更に外側５mm のところにもう１本、ギャザーミシンを入れます。

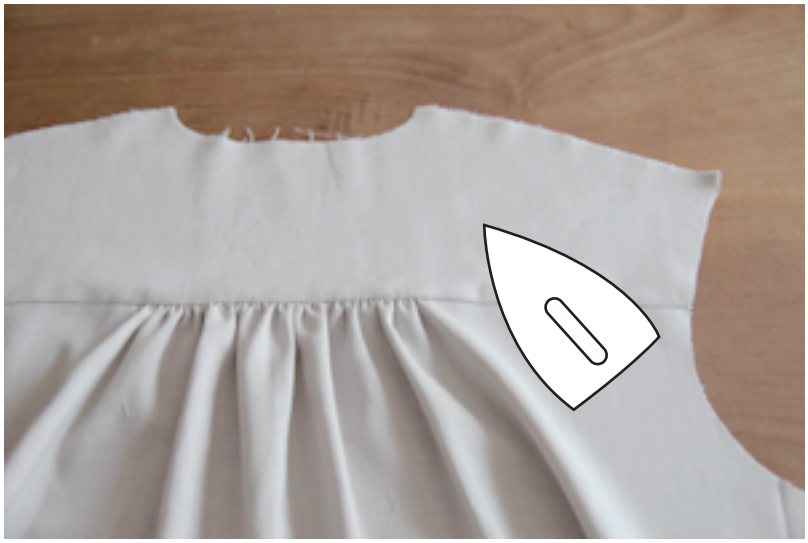


ギャザーを寄せ、縫い代部分のみにアイロンをかけて、ギャザーを安定させます。

ヨーク縫い

表ヨークと後身頃を中表に合わせて、端から0.5cmで仮止めしておきます。

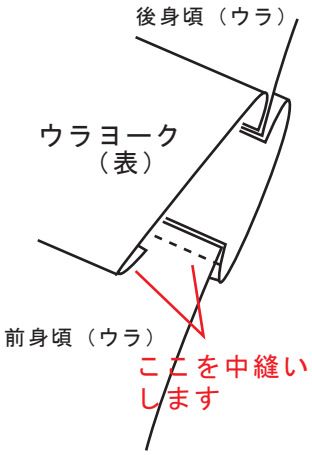
ひっくり返して、後身頃に裏ヨークを乗せて、1cmで縫い合わせます。
ヨークで後身頃を挟むような形になります。

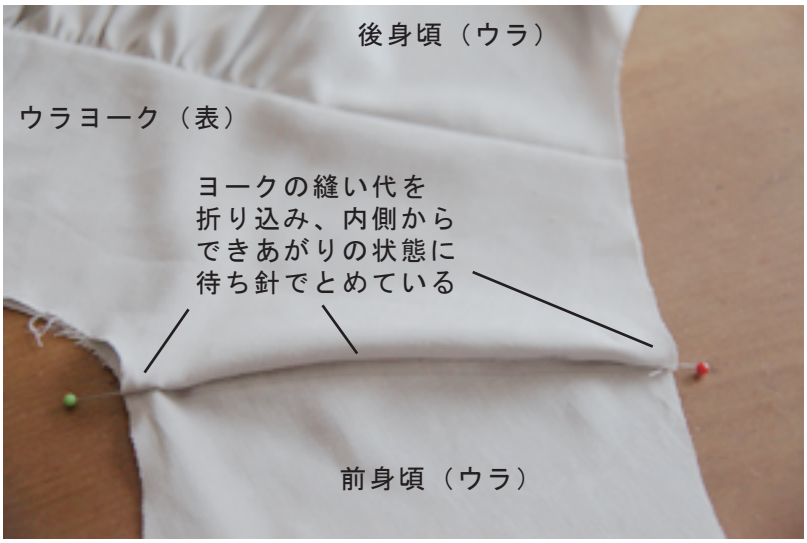


できあがりに整えます。

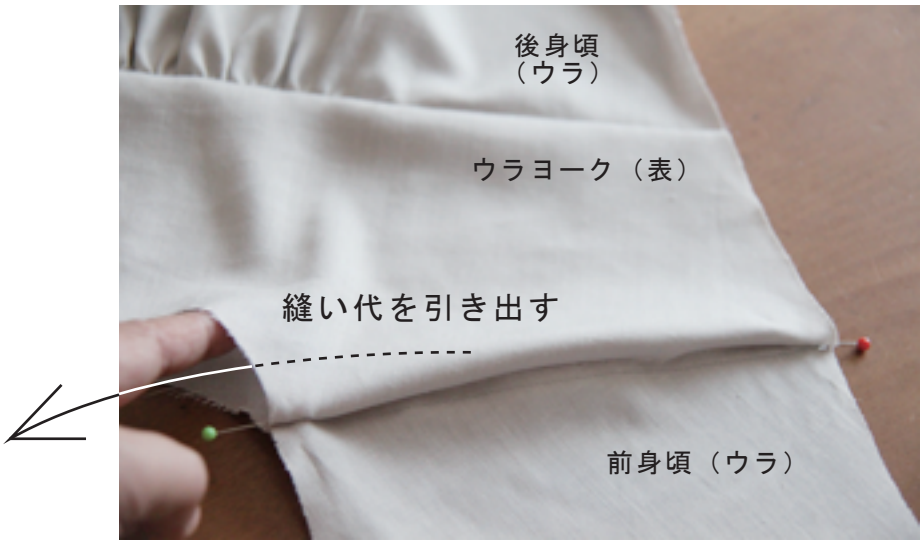
肩縫いは、生地がバイアスになっているので、できるだけ縫い伸ばさないように注意します。

表ヨークと前身頃の肩を中表に合わせて、端から 0.5cm で仮止めします。



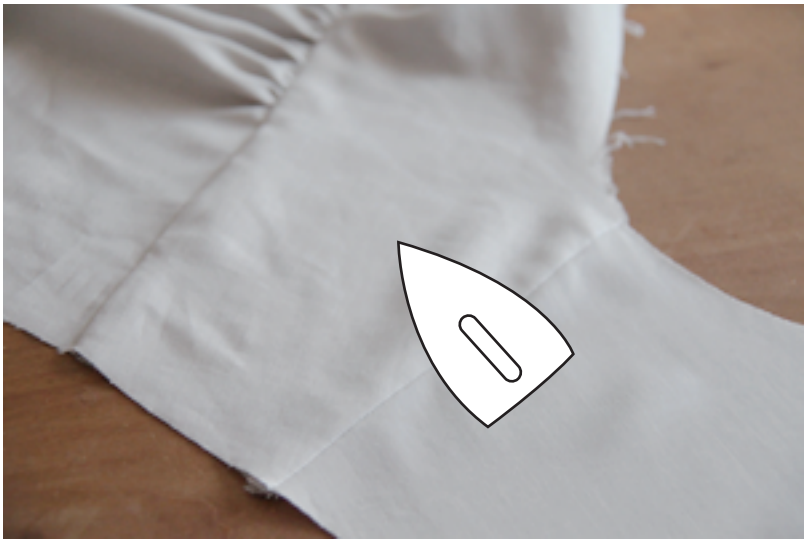


まず、裏ヨークを前身頃に、できあがりの状態にかぶせて、
ヨークの中に手を入れ、縫い代の部分を待ち針でとめます。



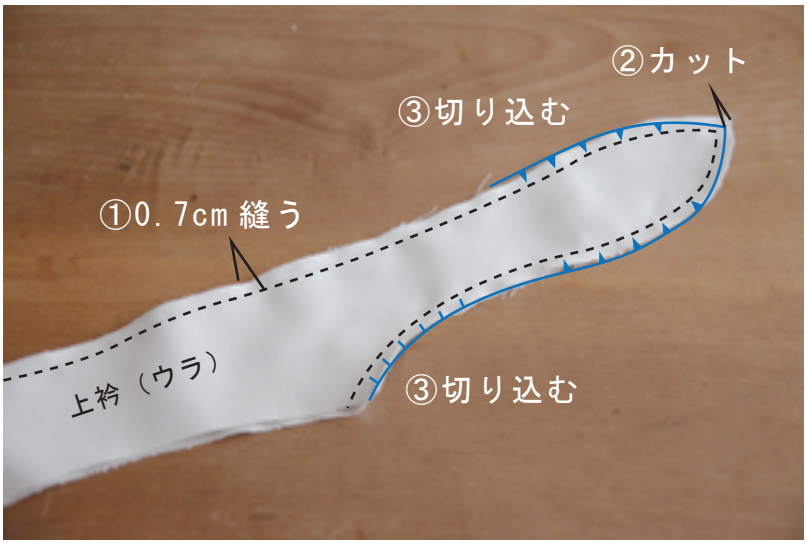
写真のように、衿ぐり側から手を入れて、ウラヨークと前身頃の縫い代を一緒につまんで、外に引っ張り出します。

つまんだ個所、ウラヨークと前身頃を1cmで縫い合わせます。

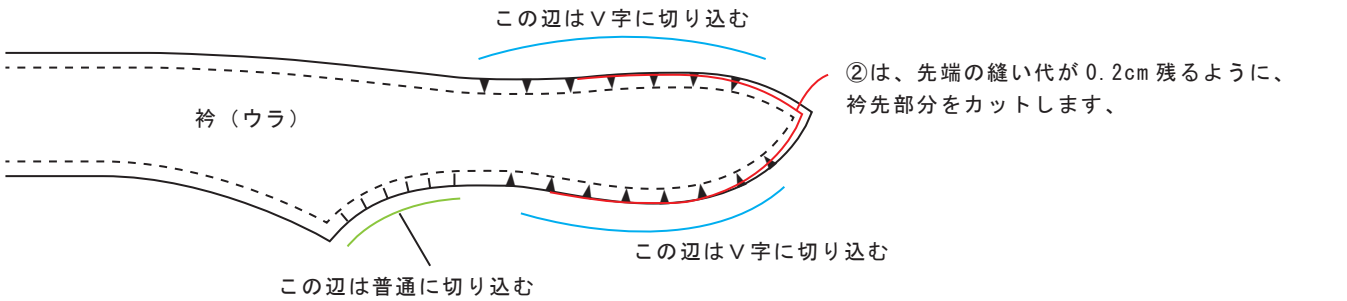


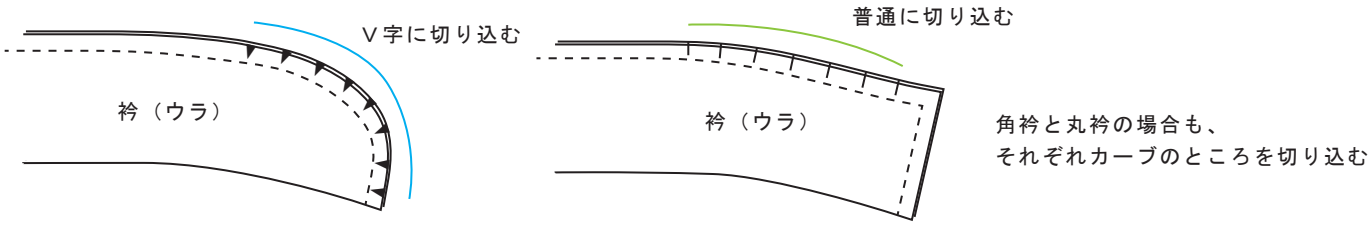
表に返してアイロンで整えます。

衿

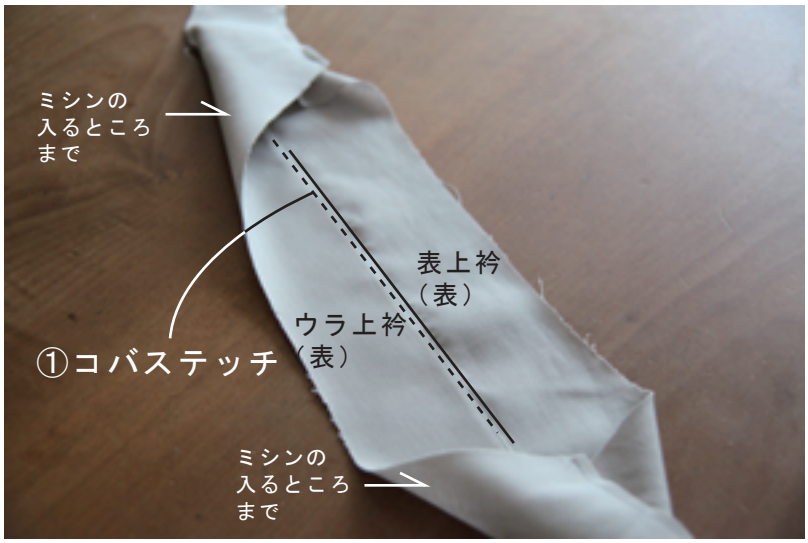


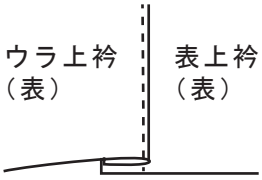
表上衿とウラ上衿を中表に合わせて、衿外回りを 0.7cm で縫い合わせます。
シネマ衿は、下図のように、先端の縫い代をカットし、切り込みを入れます。





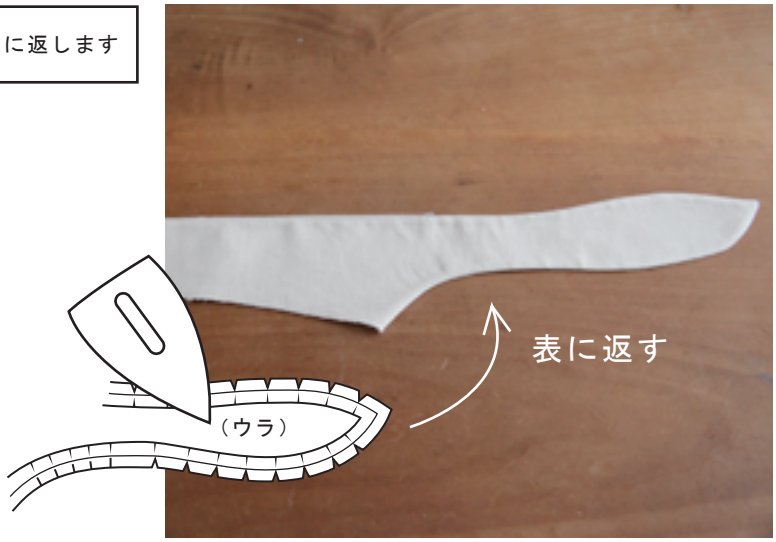
裏コバ



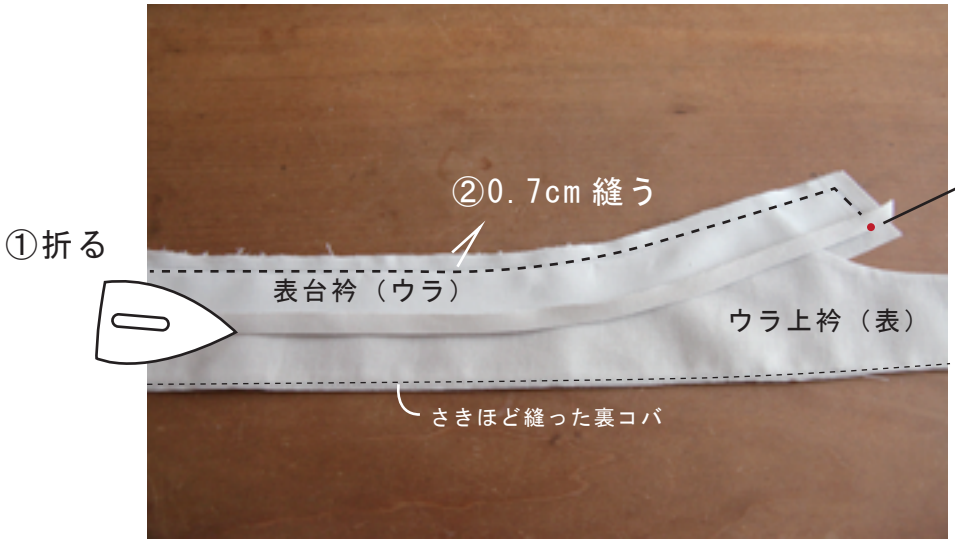


ウラ上衿側に、縫い代を倒して、ミシンの入るところから入るところまで、
コバステッチで縫い代を押さえます。

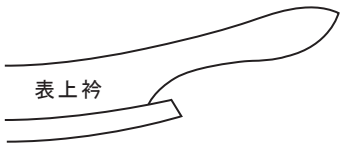
表に返します



縫い代を割って、表に返します。角は目打ちを使い、アイロン台などに
押しつけるようにして出します。（空中でやると、繊維が切れて抜けるので注意）



ミシンは、できあがりから
できあがりまでを縫う。
アイロンの折り目よりも
一針手前から縫うと、
きれいに仕上がります。

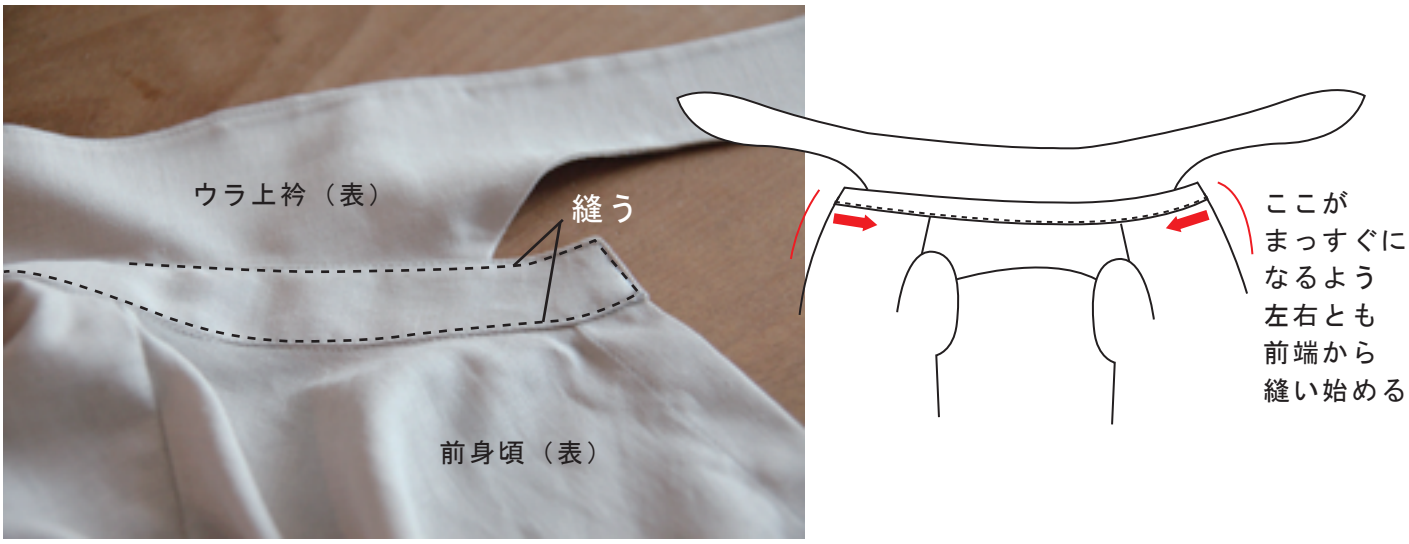


できあがりは
それぞれ
●表上衿＋ウラ台衿
●ウラ上衿＋表台衿
の組み合わせで
縫われています。

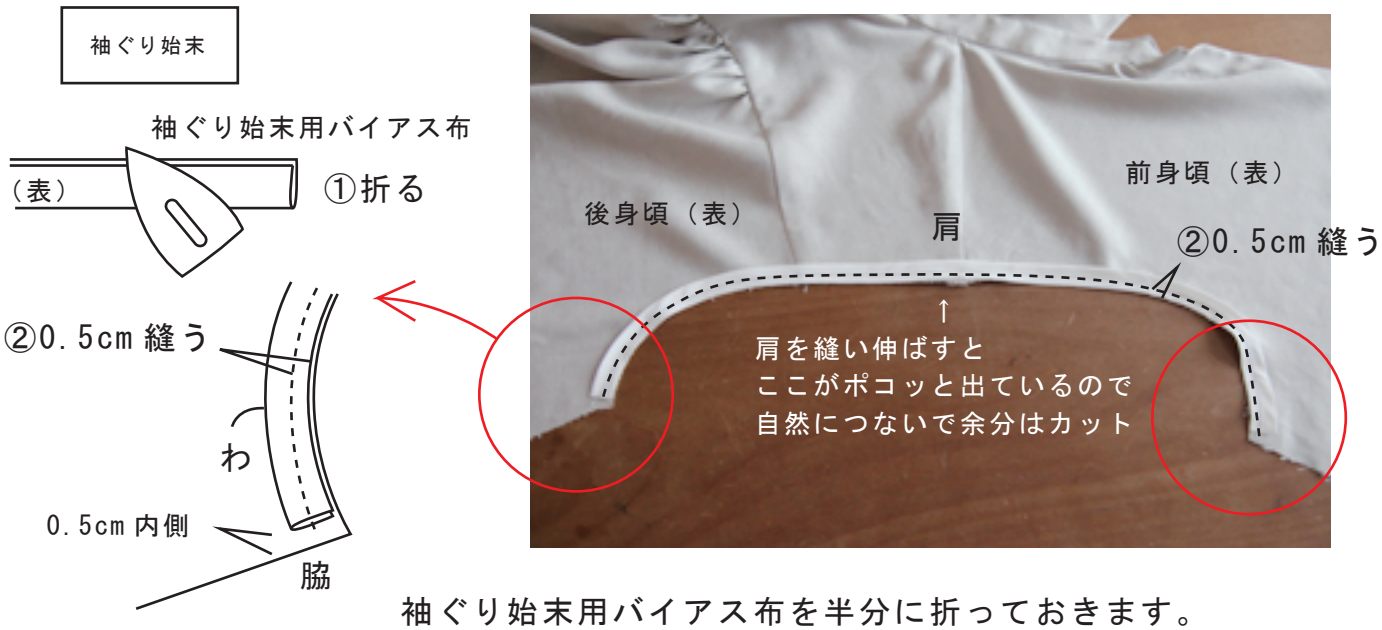
表台衿（台衿のどちらか片方）の下端を 0.7cm あらかじめ折っておき、
台衿２枚で上衿を挟んで、0.7cm で縫い合わせます。

身頃の衿ぐりウラ面に、ウラ台衿を写真のようにのせて、0.7cm で縫い合わせます。

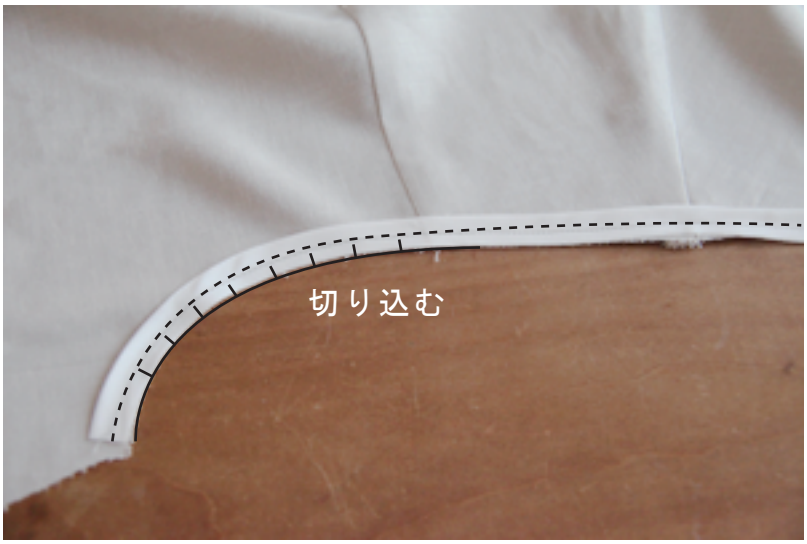
台衿を、身頃衿ぐりにかぶせます。この時、台衿端の縫い代は、全部前側に持ってきます。（この方が、台衿の端がきれいに縫いあがりやすくなります）



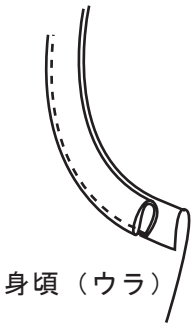
台衿のまわりをコバステッチで縫います。



袖ぐり始末用バイアス布を半分に折っておきます。
袖ぐり（表）にバイアス布を乗せて、0.5cm で縫い合わせます。
両端は、縫い代始末の時に厚みを軽減するため、0.5cm 内側まで。



カーブに切り込みを入れます。



裏側に折り込んで、コバステッチ始末します。

脇縫い

脇を袋縫いします。身頃の脇を前後で外表で合わせ、0.7cm で縫います。
縫い代端はボソボソしない様に切り揃え、縫い代はいったん割ります。

②とめミシン

ウラに返し、今度はさっきの縫い代が内側に来るように包み、0.8cm で縫います。
さっきの縫い代を縫いこまないように注意。縫い代を後身頃側に倒して縫い代とめミシン。

裾始末

裾を完全三つ折り始末します。

仕上げ

ボタンホールを開け、ボタンをつけて完成です。